

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「ゴッド・レポート」

テーマ:「神なのに、独りよがりで傲慢で、滅ぼしたがりの美少女」

キャラクター

60

ストーリー

50

テーマ(設定)

55

文章力

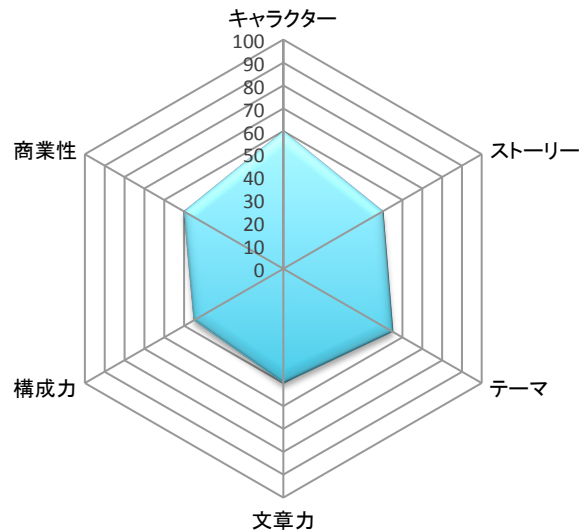
50

構成力

45

商業性

50



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

一行コピーは「ピームセイバー作っちゃったよ、こいつら!」なのに生活レベル変わってねーじゃん! 馬鹿じゃん!」でも良かった気がするくらい、原人達の謎の進化過程にインパクトがあって良かった。神会議という設定もあり聞かない面白い設定であり、非常に楽しみながら読むことができた。強いて問題点をあげるならば、この神同士のいざこざと原人達の進化という両テーマがそこまで深く絡み合っていないことか。ただ正直「ウソコと山下の話ばかりじゃねーか」等の天井ネタが面白いあまりストーリーラインについてはさほど気にならなかった。

・アカリについて、一度「滅ぼしたろか」といった美少女なのに口が悪いという美でキャラを確立させてしまっているため「さて助手君、ゴッド研修生ならば、ゴッドアイとゴッドイヤーは使えるな?」「助手どもも一お前ら、ゴッド研修生ならゴッドアイとゴッドイヤーは使えないわけないわなあ?」くらいの一貫性は欲しい。

・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない!」について、魅力は「ゴッドアカリと研修生たちの原人改良計画」を軸に広がるドタバタ感としっかりした魅力があるのだが、それが分かりにくくなっているためいっそのこと冒頭の神会議はカットしてよかったのではないかと印象を覚えた。その分を原人進化観察に回した方が「この作品の面白いのかこれ!」感がより強調されてより面白くなるのではないかと考える。

合計加点ポイント 0

総得点: 310 / 600

B方式総合得点: 16017 点